ninoyu satoshi

発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成23年 No.239 11月号

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

決断できない民主党内閣 どこへ行ったか政治主導

官僚の作文を棒読みする野田首相

10月20日、第179回国会が開かれた。今国会の大きな政治課題は、東日本被災地復興のための第3次補正予算の成立である。28日に衆参本会議場で野田首相、安住財務相の所信表明があった。野田首相は代表選挙での堂々たる話しぶりとは打って代わって、個性も特色もない官僚の作文の棒読みに終始した。その後の各党代表による質問でも、役人が用意した答弁書を読むだけで、政治家野田佳彦の思いが全く伝わってこなかった。国民もその辺は敏感に感じているのか、最近の世論調査でも首相の指導性、決断力が乏しいと答えている。その結果、比較的高い支持率でスタートした野田内閣も、ここに来て、支持率50％を切ってしまった。補正予算の審議、TPPへの参加交渉、消費税の引き上げ、普天間問題、難問山積である。優柔不断は許されない。人がよいだけでは一国の指導者は務まらない。首相としてイエス、ノーを明らかにしなければならない。野田民主党内閣は早くも正念場を迎えている。

代表質問に立つ溝手参議院自民党幹事長

恒心

★東日本大震災から早くも8ヶ月が経過した。まだ東北地方に雪が降っている時であったが、あれから春、夏、秋が過ぎ、間もなく冬を迎える季節となって来た。壊滅的な被害を被った被災地は政府の復旧、復興への取り組みが遅く、いら立ちの気持ちが募って来ている。★とりわけ、津波によってもたらされた莫大な量のガレキはほとんど処分がなされず、手つかずのままの状態である。震災直後、全国の500以上の自治体が、ガレキ処分に協力したいと申し出たが、東電の福島原発事故の影響で、辞退が相次いでいる。仙台市のような大都市であれば、独自で処分が可能であるが、それ以外の市町村では、能力の限界を超えている。★小さい自治体では事務組合を結成、共同でゴミ処分場を運営している。ガレキ処分を協力したい自治体があっても、共同で運営している市町村の中に反対があって、意見が一致せず、上手くいかないのが現状である。★さらに困ったことに、地元でないプロの運動家が役所に反対の電話をしたり、地元に入って、子どもを持つ親にことさら不安感を煽っているようだ。有権者である親から反対、反対と叫ばれたら、市長村長は協力したくても出来なくなる。★現状を見かねて、東京都が名乗りを上げ、先日30トンのガレキが宮古市から東京に到着した。東京都には反対の声が殺到したらしいが、石原知事は一蹴、「困っている時に、力のある自治体が助けるのは当たり前」と今後も協力すると断言した。震災後、日本人は秩序正しい、略奪も起きない、助け合いの気持ちは素晴らしいと称賛されたが、ガレキ処分への協力を見る限り、少し怪しい気がする。石原知事の決断に拍手を送りたい。

TPP参加を巡り議論百出

郵政民営化の時と同じ熱い雰囲気

環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）が、大きな政治問題となってきている。与党民主党は連日、経済連携プロジェクトチームで交渉参加の是非について議論を重ねていたが、慎重派、推進派の双方とも譲らず、11月11日、最終的に野田総理の決断によって、ハワイで開かれたＡＰＥＣで交渉参加を表明した。民主党の一部には、離党し、野党と共闘して、ＴＰＰ参加を阻止する動きがあるようだが、小選挙区制度の下、政府の方針に反対すれば次回の選挙で公認を外される危険性が高い。政治生命を掛けて最後まで反対できる議員がいるのか疑問である。一方、野党の自民党では党外交・経済連携調査会（会長・高村正彦衆議院議員）、ＴＰＰ（環太平洋経済連携協定）検討小委員会（委員長・林芳正参議院議員）合同会議を11月4日に開き、ＡＰＥＣでの交渉参加表明には反対であるとの考え方をまとめた。当日は多くの議員が参加、なぜこの時期なのか、このままでは日本の農業は壊滅的な打撃を受ける、すべての分野においてアメリカのルールを押し付けられるのではないか等、大変厳しい意見が出された。小泉内閣が進めた郵政民営化の時も連日、各議員が口角泡を飛ばして発言していたが、今回もそのときと同じような熱気に満ちた雰囲気だった。11月8日、自民党総務会で、高村正彦、林芳正両氏が中心になって取りまとめた「ＴＰＰについての考え方」を了承した。

TPPについて自民党としての意見を取りまとめた総務会

TPPについての考え方

平成23年11月8日　**自由民主党**

◆政府・与党では、昨年秋に菅総理が唐突に「平成の開国」のスローガンのもと、交渉参加を打ち出した。また、野田政権においても、今月12日からのAPECを目前に政府・与党は大慌てで意見集約に努めているが、明らかに前のめりの感がある。現時点でも交渉で協議されている事項が何なのか、わが国のメリット・デメリット・リスクが何か、いかなる対策を検討しているのかが、国民に示されないままである。

◆TPPについては、政府内の各省の試算がバラバラであることや、政府が正確な情報を出さないため、国民的議論が全く熟していない段階である。特に「聖域なき関税ゼロ」が前提であるとされているにもかかわらず、これにどう対応するのか不明確である。現段階では、政府の情報収集および国民に対する説明は決定的に不足している。

◆このような状況下では、APECにおいて交渉参加の表明をすることには反対である。

◆わが党は自由貿易の推進を対外通商政策の柱とし、様々なEPA/FTA、地域協定のメリット、デメリットを検討し、メリットの大きなものについては積極的に推進すると共に、これによって打撃を受ける分野については必要な国境措置を維持し、かつ万全な国内経済・地域対策を講じてきた。今後とも、この考え方のもと、外交・経済連携調査会でわが国のとるべき戦略について精力的に構築していく。

議員から出された参加への賛否の声

☆反対の意見

●ＴＰＰ参加のマイナスをもっと強調すべきだ。●アメリカ、オーストラリアからの安い農産物の輸入で食糧自給率が低下する。●ＴＰＰはアメリカから押し付けられた。●ＴＰＰ参加は大変危険である。国民にもっと危機感を訴えないといけない。●ＴＰＰに参加しても何も得られない。●民主党に参加交渉する資格も能力もない。●平成の開国というが、日本は関税率も低く、既に開国している。●米国と対等の立場を維持するためにも日本の防衛力を維持すべきだ。●農産物は自由貿易になじまない。●例外なき関税ゼロはあまりにも唐突である。●情報、説明不足で国民は良く分っていない、拙速は避けるべき。●大店法導入で全国の商店街がつぶれた。ＴＰＰは同じ運命に陥る。●ＴＰＰに対する自民党の態度が明確でない。断固反対と主張すべきだ。●アメリカの外圧によって日本の国の形を変えてしまう危険性がある。●今参加の判断をすべきでないが、自民党なら自由貿易体制をこうするという方針を示すべきだ。

☆賛成の意見

○日本企業が世界で活躍できる戦略、戦術を立てるべき。○直接支払いで農業を保護するにしても、その財源をどこで稼ぐのか。○日本のビジネスが世界で活躍できる場を作ってやる必要がある。○今の状態では多くの企業が日本から外国へ逃げてしまう。○野田首相はもっと早く参加表明すべきだと考える。断固反対をすべきでない。○自民党は自由貿易体制に反対しているという印象を与えるべきでない。

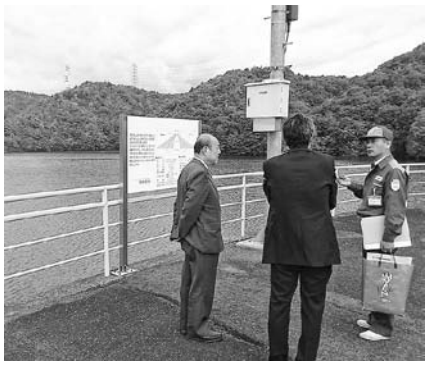
今後のエネルギーのあり方を考える

関西電力管内の発電所を視察

東日本大震災による東電福島第1原子力発電所事故以来、反原発、脱原発の声が高まっている。政府も原子力への依存を少なくし、将来は再生可能エネルギーへの転換を図る方針を固めているが、今すぐ全ての原子力発電所を稼働停止をすれば、現在の国民の高い生活水準、経済活動を維持することはできないのも事実である。原子力が悪、自然エネルギーが善で、自然エネルギーが原子力にとって代われるかのようにマスコミや一部の学者が宣伝し、国民はそれを信じているが、現実はそう甘くない。太陽光、風力、地熱、バイオなどの自然エネルギーは総発電量の僅か1%にすぎない。好き嫌いは別にして、当面は原子力に頼らざるを得ない。そのためには原子力の安全性をより高め、万が一の事故に備える体制を築かなければならない。関西電力は11基の原子力発電所を持ち、総発電量の50%近くを原子力に依存している。二ノ湯議員は、今国会で経済産業委員会に所属することになった。エネルギー問題も所管事項である。先ず関西電力管内の発電の実態を知らなければならないと考え、11月9、10日の両日、宇治市の喜撰山発電所、京都市の蹴上発電所、福井県高浜町の高浜原子力発電所、舞鶴市の火力発電所を視察した。

❖(1)喜撰山発電所

今年の夏、東京、関西電力管内で電力不足が心配された。その時、盛んに言われたのが揚水発電所の利用。電力使用が少ない夜間に、下のダム(喜撰山は宇治川)から上の方のダムに水をくみ上げ、電力需要の多い昼間のピーク時に、上部ダムの水を使って、1日5～6時間発電する。電力不足を補うピンチヒッターの役割をする。喜撰山発電所は昭和45年に建設された。山をくり抜いた15階建のビルに相当する発電所からの発電量は46.6万KWである。


喜撰山ダムで説明を受ける二ノ湯議員

❖(2)蹴上発電所

東京へ都が移り、京都はさびれた町になってしまった。多くの先人が京都復興のために立ち上がったが、最大の事業は琵琶湖から京都まで水を引いてくる琵琶湖疏水の開鑿(かいさく)である。当初、疏水は物の運搬、水車の動力源として考えられていたが、当時アメリカコロラド州アスペンで水力発電が行われていることを知り、蹴上で水力発電を導入、明治24年、京都市直営で電力事業を始め、京都の近代化に大きな役割を果たした。現在、3千KWを発電している。

❖(3)高浜原子力発電所

日本の電力の約30%近く原子力に依存しているのが現実である。若狭湾沿岸の美浜、高浜、大飯の3ヶ所に11基の関西電力の原子力発電所がある。兵庫県選出の末松信介参議院議員と一緒に高浜発電所を訪ねた。入場には、厳重な検査が実施される。国会議員でも、身分証の提示、ボディチェックを受ける必要がある。高浜には4つの発電機があり、関電の電力量の約20%を発電、京都府の真夏のピーク時の電力を全て賄える。しかし、原発は13ヶ月に一度、定期検査を受けなければならない。1、4号機が検査中であり、2号機は11月、3号機は来年2月に定期検査に入ることになっている。福島事故の教訓を生かし、住民の理解が得られるよう、入念な定期検査、さらにより安全性を高めるため、ストレステストが導入された。それでも今の反原発、脱原発の世論の中で、地元自治体の同意が得るのは非常に難しい。同意がなければ再稼動が出来なくなり、来年2月には、高浜の原発は全て稼動が停止する。そうなれば、関西の電力事情は非常に深刻である。また、高浜発電所には常時2～3千人が働いており、雇用の面で、地元は大きな打撃を受ける。国のエネルギーをどう確保するのか、国民みんなが真剣に考えなければならない。

高浜原子力発電所3号機発電機の前で

❖(4)舞鶴火力発電所

地球温暖化が深刻になってきた時、温暖化の原因となるCO_2を発生するということで多くの火力発電所の稼動が停止された。だが、原発事故以来、急遽点検整備して、再び稼動する動きがでてきている。舞鶴発電所には90万KWの発電機が2台ある。180万KWの発電量で、原発2基分、約400万戸の家庭の電気を賄える。発電の燃料は石炭。年間消費量は400万トン。約60%がオーストラリア、20%がインドネシアから輸入している。24時間稼動で、常時関電職員125人、協力会社300人が3交代制で働いており、定期検査時には6～8百人が働く。地元出身が約50%近くに達しており、舞鶴火力発電所は地元雇用に、大きな貢献をしている。

二ノ湯議員、自民党総務 常任委員会は経済産業委員に

自民党は10月下旬、党役員及び国会の委員長人事を行なった。二ノ湯議員は文教科学委員長を辞任、常任委員会では「経済産業委員会」、「決算委員会」に、特別委員会では「消費者問題に関する特別委員会」の筆頭理事に就任した。党の方では、総務に指名された。25名の総務で構成される総務会は、党の運営及び国会活動に関する重要事項を審議決定する。参議院議員からは8名が選出されている。さらに組織運動本部（菅義偉本部長）の副本部長として、党の地方組織と党本部との連絡調整、友好団体との交流・対話の拡大を促進し、次期衆議院総選挙への準備をすることになった。併せて総務部会の副部会長を務める。

身辺雑記

一、世界の人口が70億人になった。1960年代からほぼ2倍の増加率である。地球上にどれぐらいの人口が生存できるのか知らないが、この調子で人口が増えれば、今世紀末には深刻な食糧難に直面し、食糧争奪戦争が起こるだろう。

一、西岡参議院議長が亡くなった。民主党所属であったが、菅前総理にはかなり批判的であった。1ヶ月前、西岡事務所から私の携帯番号を教えてほしいと連絡があった。私に何の用事があったのか、今となってはわからない。

一、橋下知事の大阪市長選へのクラ替え立候補によって、大阪は知事、市長選のダブル選挙となる。橋下氏が知事の座を擲（なげう）って、何故市長選に挑戦するのか。多くの有権者はわからない。選挙を通じて、府県と政令市のあり方を考えて欲しい。

一、先月は偶然が重なった。神田の古本まつりで「先生」と挨拶された。20年前に仲人を務めた人。植物園の式典に参加し、帰り際に、「西京高校出身の土肥です」と声を掛けられた。なんと最も親しかった友人で35年ぶりの再会であった。

一、第3次補正予算の財源としてたばこの値上げが候補に挙がっていた。健康増進と言う美名の下、財源確保のため、たばこの値上げが先ず狙われる。今回は3党の合意によってたばこ増税が見送られた。世の愛煙家はほっと一息である。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会　年会費　１万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

「日本真生塾」 第14回・第15回例会のお知らせ

平成23年11月28日(月)　18時～21時

平成23年12月19日(月)　18時～21時

※12月は忘年会を開催します。詳細はホームページでお知らせします。

場所：龍谷大学アバンティ響都ホール（京都駅八条口前アバンティ9F）

★今後のテーマは「戦後の日本」について進めてまいります。

＜お問い合わせは事務局へ＞（担当：近藤）

TEL：050-7544-4018　メール：nihonsinseijuku@yahoo.co.jp

内容・年会費など詳しくはホームページをご覧ください。日本真生塾 で検索。

日本真生塾　塾長　**岡本幸治**

新春招福バスツアー

第25回 伊勢神宮初詣

◇旅行日　平成24年1月9日（月・祝）

◇昼食場所　鳥羽『戸田家』

◇会　費　8,000円

◇申込締切日　平成23年12月15日(木)

◇申込先　後援会役員または二ノ湯さとし京都事務所まで　TEL(075)315-2228 FAX(075)315-2310

参議院議員　二ノ湯さとし後援会

二ノ湯しんじ後援会

歩こう会のご案内

★歴史探訪と健康づくり★

日　　時：11月23日(水・祝)　＊小雨決行

集合時刻：午前9時（時間厳守）

集合場所：地下鉄国際会館駅4―1番出口

☆今回は、深まりゆく秋の赤山禅院、曼殊院などを巡ります。古都の紅葉をお楽しみください。

詳細は、二ノ湯しんじ後援会発行の案内をご覧ください。

お問合せ先

京都府議会議員 二ノ湯しんじ事務所

〒616-8167 京都市右京区太秦多藪町44-1

TEL 075-862-1355　FAX 075-862-1350

京都府議会議員　二ノ湯しんじ

出版記念パーティーのご案内

日　時：11月24日(木)

一部：17：00より　講演・討論会

二部：18：40より　懇親会（立食形式）

会　場：京都全日空ホテル 2階

会　費：8,000円（書籍1冊含む）

※この催物は、政治資金規制法第八条の二に規定する政治資金パーティーです

『日本復活の政治論 ―信じて和する―』

定価1,400円（総合法令出版）

お申込み先　京都府議会議員二ノ湯しんじ事務所

お問い合せ先　〒616-8167 京都市右京区太秦多藪町44-1

TEL 075-862-1355　FAX 075-862-1350